

「世界を変える技術」を支え、カットिंगの常識を打ち破る

株式会社名古屋刃型



本社外観

企業概要

代表取締役社長

樋者 俊博氏



所在地 愛知県一宮市東五城南大堀12
TEL:0586-61-7722 FAX:0586-61-7772

設立 1992年(平成4年)7月

資本金 1,000万円

従業員数 30名(2026年2月現在)

事業内容 フラットディスプレイ用フィルム抜型製造、IT関連向け
精密トムソン刃型製造、打ち抜き用資材販売

URL <https://www.nagoya-cut.co.jp>

最先端技術と繊細な職人技を駆使し、
オンリーワンの刃型を生み出す。

打ち抜き刃型業界の
唯一無二の存在

危機を乗り越えての
会社設立

株式会社名古屋刃型は愛知県一宮市に本社を構える精密打ち抜き刃型の専門メーカー。現在、三代目となる樋者俊博氏が代表取締役社長を務める。

従業員30名規模の中小企業でありながら、大手自動車会社などグローバル企業とも直接取引を行い、打ち抜き刃型業界において唯一無二の存在感を放っている。

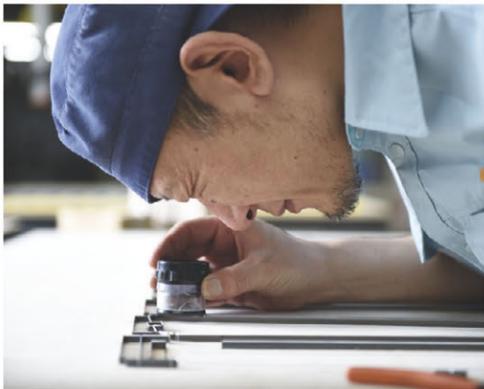
同社の特徴は単なる技術の高度化だけではない。産業構造が大きく変わる中で、「他社がやらないこと」をあえて選択し続けてきた。職人の手業、勘と最新鋭の機器を高次元で融合させ、付加価値を最大化させるその経営戦略で、地方製造業の生き残りにおける一つの解を示している。

同社の設立は1992年。創業者である現会長・樋者正昭氏が当時勤務していた企業が閉鎖。樋者会長は多くの取引先を抱える名古屋営業所のトップを務めており、顧客からの事業継続を望む声が強かったという。

樋者会長は13名の社員とともに独立し、現・株式会社名古屋刃型を設立した。同社の売上のほとんどは自動車内装部品品の打ち抜き刃型であったが、わずか数年で危機が訪れた。自動車内装部品業界における自動裁断機(NC裁断機)の急速な普及により、従来の手作業による金型需要が激減したのだ。

メーカーの要望に応える
高精度を実現

東海道本線の沿線に掲げられた工場の看板が、予期せぬ縁を呼び込む。向かいに社屋を構え

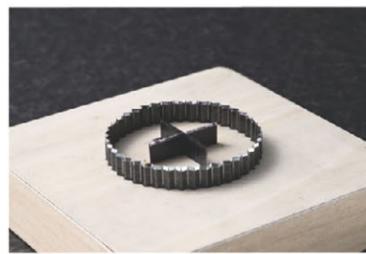


仕上げ作業

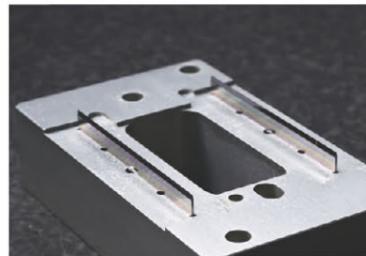


女性職人も活躍

ンまで多くの職人が育っている。技術の担い手として、あるいは海外展開をリードするメンバーとして同社が期待を寄せるのが若きベトナム人社員たちだ。「手先



トムソン型



ワイヤーカット型

製工程には、刃を曲げる、合板や金属製のベースに刃を入れる溝をつくる、溝に垂直に刃を差し込む、刃先の高さを調整す

ていた大手印章メーカーからゴム印用刃型の製作依頼が舞い込んだのだ。メーカーに話を聞くと、「全国の刃型会社に試作を依頼したが、望む精度がどうしても出ない」とのこと。大手印章メーカーの要求精度は「±5/1000ミリ(0.05ミリ)」。これまで製作してきたものとは、まさに桁の違う精度である。

株式会社名古屋刃型の主力

るなど、多くの繊細な職人技を必要とする。

この頃、自動車内装部品よりも高い精度を要求されるIT分野へシフトチェンジを図ろうと、若い職人たちが技術を必死に磨き上げていた。そして試行錯誤の末、大手印章メーカーの期待を上回る精度の刃型を実現させた。土台の加工作業に最新のレーザー加工機を導入したことも精度向上につながった。最新機器の導入は、同じ姿勢で土台の加工を続けて腰を痛めていた熟練職人の身体的負担も軽くした。

取引開始から2年後には大手印章メーカーから大量発注を受けることとなった。この成功は同社が高精密刃型メーカーとして飛躍する転機となった。

機械による自動化に背を向ける

その後、金属の曲げ加工を自動で行う「オートベンダー(自動曲げ加工機)」が登場した。職人技に頼らず誰でも操作可能とあって、打ち抜き刃型業界で機

器の導入が加速した。

多くの企業が職人から機械へ代替する道を選ぶ中、同社は違った。「皆が機械化へ流れるなら、うちは職人を極限まで鍛え上げる」。さらには「一流の職人には一流の設備が必要」と、最新鋭の計測器、高性能カメラなど世界トップレベルの設備を惜しみなく導入。デジタルで精密に測定し、アナログの感覚で微調整するという組み合わせでミクロン単位の技術を確立した。

超精密刃型製作技術「RAIDE CUT」

職人技術と最新設備の融合は、数々の画期的な製品の誕生を可能にした。その代表格が、自動車の電池製造ラインでも採用されている「ミラクルエアカット」である。従来の刃型は受け板に刃を当てて切るため刃先が摩耗し、10万回の使用が限界であった。これに対し同社は、受け板を必要としない「空中切り」を実現。耐久性を50倍の500万回まで引き上げた。今日では800万回まで耐久性を上げること

が器用かつ語学堪能、日本人社員とも良いコミュニケーションが取れる」と樋者社長は太鼓判を押す。ほかにも芸術大学出身の女性職人、同社の製品に惚れ込んで取引先から転職した営業社員など、そのバックグラウンドはさまざま。

30名のほぼ全員が正社員採用

であることから、同社が人の育成に力を入れていることがうかがえる。現在、50代のベテラン職人が若手を指導しているが、「人から教えられることには限界がある。一流の職人を目指すには自分の努力あるのみ」と樋者社長は語る。クオリティの高い製品を自らの手で創り上げることにやりがいや達成感を感じる職人にとって、それは望むところだろう。

同社のブランド「RAIDE CUT」の名称には、樋者社長の思いが込められている。「創業当時から技術者として会社を支え、共に苦勞を重ねてきた社員井寺氏の名前(IDERA)をどうしても製品に残したかった」と述懐する。同社のアドバイ

ザーを務めるグラフィックデザイナーがアルファベットを並び替えた「RAIDE」という名を提案した。「RAIDE」はフランス語で「硬い、まっすぐ」といった意味も持つ。

若者がやりがいを 持てる会社へ

昨今、AI技術の進展が目覚ましく日常生活や業務において急速にAIが浸透している。ものづくりのAIへの代替も懸念されるどころだが、「職人技とAIを融合して使いこなせば、他ではできない、さらに良いものをつくることができる」と樋者社長は自信をみせる。

一流の設備を使い、一流の職人がものづくりをすることが同社の強さの根源だ。「業界の二番手に甘んじては価格競争に巻き込まれるだけ。たとえ小さなニッチであってもトップになれば主導権を握ることができ、値段ありきでなく品質ありきで勝負できる」と、あくまで一番であることに重きを置く。事業規模の拡大よりも、会社



刃曲げ工程

成功している。そのほか、金属箔のバリ(材料のエッジや表面に生じる不要な突起や出っ張り)を抑制する「バリデーンカット」、10ミクロンの極薄フィルムに5ミクロンの切り込みを入れる「スパーパーハーフカット」など、難易度の高い加工を次々と実現。これらの超精密な刃型製作技術は「RAIDE CUT(レイドカット)」という名でブランド化されている。

多様な人材登用と 職人への尊敬

人手不足に苦悩する企業が多い中、同社には若手からベテラ

を強くし、オンリーワン企業であることを追求する同社。給料の高さ以上にやりがいや納得感を求める今の若者にとって「未来があり、やりがいを持つ会社」であり続けるため、株式会社名古屋刃型はさらに鋭く、技術に磨きをかけていく。

編集 会員事業部 中嶋 理可

支店より一言

同社は「ナンバーワン」を追求する探究心を持ち、繊細な職人技術と最先端の設備を駆使してお客さまの期待を形にされています。2023年9月にはその優れた技術を世界に届けるべく、ベトナムに現地法人を設立しアジア市場に進出されました。現状に満足せず、常に挑戦を続け、グローバルに飛躍する同社の姿勢を私たちはこれからも全力で応援してまいります。



百五銀行 一宮支店長 満居 太